

# 生産者やパートナー企業の支援で誕生した、農業・青果流通の新しい形を築く新会社

株式会社アグリゲート東北（山形県）



## 出資者・出資額表

●東北6次産業化ブリッジ投資事業有限責任組合	695万円
●地元農家合計	350万円
●(株)ジャパン・アグリゲート、(株)ハミングバード・インターナショナル、(有)館のおおすか 以上3社による共同出資	345万円
合計	1390万円

## 【事業内容】

山形県の果樹農家が、食品流通・加工・外食事業の実績のあるパートナーの販路・ノウハウを活用し、ギフトマーケットや輸出等、果物の販路拡大を推進することで、新たなバリューチェーンを形成。原材料の付加価値向上を目指す事業。

ビジネスとしての農業に樂しさを感じています

農業者と流通業者が一体になった、新たな流通モデル

2014年10月に誕生したアグリゲート東北は、山形県河北町にあつた1軒のコンビニエンスストア跡地を事務所に選んだ。従業員のデスクの横には天井に届きそうなくらい段ボールが高く積まれており、作業台では山形県産のりんごやラ・フランスが棚

包され、駐車場ではフォークリフトが走る。「『何をやる会社なんですか?』とよく聞かれますが、私たちはここで、農家さんと流通業者が一体になつた新たな流通モデルを作ろうとしています」と、代表取締役の宮川博臣さん。

アグリゲート東北は、山形県のりんごやラ・フランス、さくらんぼなどの果樹生産者を中心にして設立された合弁企業で、A·F·I·V·E出資案件の中でも数少ない、流通を主軸としている事業体だ。流通のプロと地域生産者が連携して、品質の高い特産品を産直ギフトなどの高付加価値市場で販売拡大していくことを目指している。「地産地消という言葉がよく使われていますが、山形の場合、70%以上の果物が県外流通です。

こうと催事やマルシェへの出店、移動販売などにも取り組んでいます。先日、宮川さんと一緒に香港の市場を見学して、海外の販路開拓のイメージも持てました。アグリゲート東北の設立により、新規事業に取り組んでいくことの楽しさをメンバー全員が感じています。山形の農家の未来につながるような事業を起こしていくこうというモチベーションも上がっています。



株式会社アグリゲート東北 代表取締役

宮川博臣さん (43)

銀行マンから流通の業界に転職。アグリゲート東北の設立で、家族揃って山形へ転居してきた。

アグリゲート東北は、山形県のりんごやラ・フランス、さくらんぼなどの果樹生産者を中心にして設立された合弁企業で、A·F·I·V·E出資案件の中でも数少ない、流通を主軸としている事業体だ。流通のプロと地域生産者が連携して、品質の高い特産品を産直ギフトなどの高付加価値市場で販売拡大していくことを目指している。「地産地消という言葉がよく使われていますが、山形の場合、70%以上の果物が県外流通です。

アグリゲート東北で副社長を務めたパン・アグリゲートで、販路を開拓する先が流通業者と取引する際、流通業者と生産者との信頼関係を重視しています。私たちにとっては実はそれが最大の強み。東北なら東北と产地に密着し、生産者と話し合いながら販路を開拓していきます。それが品質向上や生産者の収入アップにもつながります」と宮川さん。



山形の農家の未来を考える協議会 会長

高橋彦太さん (32)

さくらんぼ(110アール)をはじめ、桃、すもも、米などを生産している農家の三代目。高橋さんが育てたさくらんぼは山形県の品評会で高く評価されている。

## 生産者との信頼関係を強みに開拓していく新たな販路

そのような信頼関係が、アグリゲート東北の協力生産者のひとつ「山形の農家の未来を考える協議会」との間で築かれている。協議会の会長・高橋さんはアグリゲート東北の出資者のひとりである。生産者と付き合う中で宮川さんは、「美味しいものを美味しいところに置いて、産業を強く大きいものにしていき、効率的にするものだと思います」と話す。

一方で、流通業界に対する懸念も抱える。「農業界での流通は、価格決定も含めた販売委託が行われていることがほとんどです。さらに、生産者には農産物の安定供給が求められています。現代の流通では、安定供給

でいくことを願っています。アグリゲート東北には、生産のプロがいて、僕たち流通のプロがいる。6次産業化はプロとプロが連携することによって、産業を強く大きいものにしていき、効率的にするものだと思います」と宮川さんは衰退してしまいます。そんな時代背景の中、アグリゲート東北が築いてきた青果物の価格について、事前に話し合い、地元農家から直接仕入れるというシステムです。私たちが大事にしていることは、一時的に商品をどれだけ高く売るかということではなく、農家の安定した収入を確保し、さらに通年で一定の売上を維持することで、それをどのようにして増やしていくか

できることです」と宮川さんは、「このようないい商品を抱えてしまった産業転職したのは、素晴らしい品質の果物を作る生産者に出会ったことがきっかけでした」。このようないい商品を抱えてしまった産業転職したのは、素晴らしい品質の果物を作る生産者に出会ったことがきっかけでした。「このようないい商品を抱えてしまった産業転職したのは、素晴らしい品質の果物を作る生産者に出会ったことがきっかけでした」ということだ。宮川さんは、金融業から流通業に転職したのは、素晴らしい品質の果物を作る生産者に出会ったことがきっかけでした。



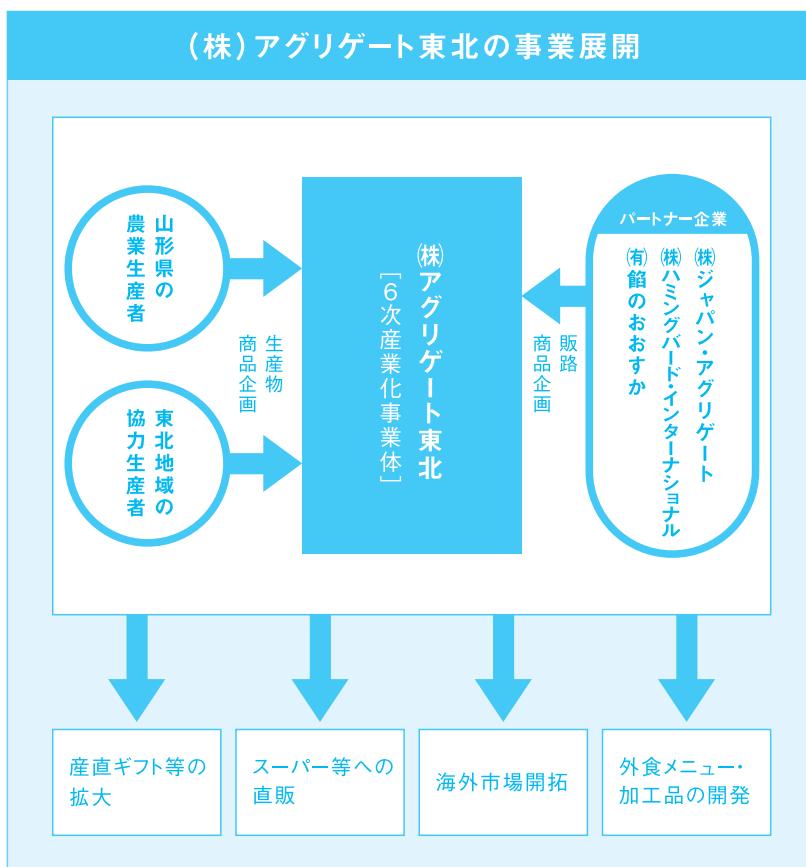
青果を入れる箱は、りんご、ラ・フランス、桃など、どの種類でも使えるデザインを採用し、コスト削減を図っている。



協力生産者グループ「山形の農家の未来を考える協議会」は、20~30歳の農業者で構成され、2011年2月、村山地方を中心とした6名のメンバーからスタートした。



全国生産量の約7割を占める山形県のさくらんぼ。ハウスさくらんぼも含めると、毎年4~8月が収穫時期となる。



「出資同意決定に至るまでには、  
かがパートナー企業として共同出資。  
両社の経営者の二人は宮川さんの盟  
友で、農商工連携を成功させる人材  
の育成を目的とした研修の同期メン  
バーとして出会った。

サブファン等と様々な書類のやり  
取りがありますが、パートナーとの信  
頼関係がなければ円滑に進められな  
かったと思います。また10カ年計画の  
書類作りでは、現在のように企業經  
営を取り巻く環境変化が目まぐる  
しい時代に、ベンチャー企業が10年先  
のことを予想しなければならないこ  
とに戸惑いもありました。ですが、  
様々な条件を仮定をして数字を組み  
立てていくとなるほどと思うことが  
あり、新鮮で勉強になりました。ファ  
ンドの担当者に親身になって相談に  
乗ついていただいたのがたかつたで  
すね」と宮川さん。

## 生産者、パートナー企業との 強い絆で新会社を設立

新会社設立にあたり、「生産者と  
流通業者が一体となつた、新たな流通  
モデルを作りたい」という宮川さんの  
思いと同じ方向を向くメンバーが集  
まつた。ジャパン・アグリゲートや山形  
の生産者以外に、仙台でイタリアンレ  
ストランを経営する(株)ハミングバ  
ード・インターナショナル、会津若松で和  
菓子を製造している(有)餡のおおす  
かがパートナー企業として共同出資。



出会った頃、高橋さんは、「ビジネスマンとしてどうなんだ!?'と宮川さんから叱咤激励されたことも。

## 生産者の声や思いを 消費者に伝えていく新しい流通

「現在、品質や価格に対する消  
費者の求めるレベルは日々高まつて  
います。一方で農業は、限られた期  
間や耕作面積の中で、いいものを  
生産できるかを追求しますが、生  
産できる農産物の量は限られ、コス  
ト低減の難しさに直面しています。  
このようにして消費者が求めてい  
ます。ジャパン・アグリゲートは、首  
都圏に拠点を置く流通のプロとし  
て、大都市での販路開拓や東南ア  
ジアを中心とした海外展開など、  
緊張感を持ちながらアグリゲート  
東北をサポートしていくたらと考  
えています。」



株式会社ジャパン・アグリゲート  
代表取締役社長  
いわとうけんじ  
岩藤 健二さん (44)

東北の果物を中心とした青果物に付  
加価値をつけ、首都圏の外食産業、  
仲卸などへ販売を行っている。



アグリゲート東北の拠点は、コンビニの跡地を活用し  
2014年10月1日立ち上げられた。



株式会社アグリゲート東北

山形県西村山郡河北町西里418-1  
TEL:0237-85-0611

ることに生産者は対応しきれず、  
大きなギャップが生まれてしまい  
ます。ギャップを埋めていくために  
は、消費者は生産者がどのような  
状況で食物を栽培をしているかを  
知ること、そして、日本各地の生産  
者が自分たちの思いを伝えていく  
ことが必要です。アグリゲート東  
北はそのための拠点作りのひとつ  
で、この流通モデルが成功して日本  
中に広がっていくことを希望してい  
ます。ジャパン・アグリゲートは、首  
都圏に拠点を置く流通のプロとし  
て、大都市での販路開拓や東南ア  
ジアを中心とした海外展開など、  
緊張感を持ちながらアグリゲート  
東北をサポートしていくたらと考  
えています。」